

# プログラム近況報告

World Vision

この子を救う。未来を救う。

ネパール連邦民主共和国 西ドティ地域開発プログラム(NPL-196899)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)



地域住民との信頼関係を大切にして活動を進めています

2013年度、西ドティ地域開発プログラム(以下、ADP)では、コミュニティの子どもたちの健やかな成長のため、スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト、母子保健、教育、水衛生、生計向上の5つのプロジェクトを実施しました。ADPスタッフは多くの時間を支援地で過ごし、地域の人々や地元行政や保健機関などと一緒に活動に取り組んでいます。このことによって、地域の人々と親密な関係を築き、彼らが実際に抱えている課題を見つけ、理解を深めるだけでなく、地域の人々が自ら責任感を持ち、ともに働き、決断できるようになることを目指して活動を進めています。

## チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長

とともに喜んでいただけますと幸いに存じます。皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山 信彦



## ADPマネージャーからのごあいさつ

親愛なるスポンサーの皆さま

ドティからご挨拶申し上げます。

皆さまに2013年度のご報告をお届けできることは、私たちにとって喜びです。皆さまのご支援が、西ドティ ADPの子どもたちやその家族に笑顔をもたらしていることに心から感謝するとともに、これからも一緒に新しい未来を築いていただきたいと願っています。

ジャム・バハドゥル・ポハラ (西ドティ ADPマネージャー)



## 母子保健プロジェクト

母子保健プロジェクトでは、5歳以下の子どもたち、妊娠中・授乳中のお母さんたちの健康改善を目指しています。2013年度は、地域の医療機関で働くスタッフや保健ボランティアへのトレーニング、母親グループを対象にした出産前検診の重要性についての啓発活動や、子どもの食事指導などを行いました。また、特に貧しい家庭の子どもには食材(栄養価の高い小麦粉など)を配布しました。食事指導を受けたイシャラ・デビ・カドカさん(33歳)は、「以前は、自分の赤ちゃんに雑穀のパンを与えていましたが、食事指導を受け、より栄養価の高いおかゆを与えるようになりました。今、赤ちゃんは健康ですし、体が丈夫になったと思います」と話します。



乳幼児の成長を親とともに見守っています



健康診断を受ける地域の子どもたち

## 生計向上プロジェクト

生計向上プロジェクトは、世帯の収入増加を目指し2013年4月に始まりました。支援地域は約90%の世帯の年収が約3万円と非常に貧しく、働き盛りの男性のほとんどがインドや都市部へ出稼ぎに行ってしまう。そのため世帯の生計を少しでも向上させることは、子どもたちの生活環境を改善する上でも非常に大切です。

今年度は、農産物の生産量を増加させるため、農家へのトレーニングや種子の支給、共同組合の強化、若者を対象にした職業訓練などを実施しました。また、特に貧しい世帯を対象にヤギや鶏を支給しました。



鶏の支援を受け養鶏を行う家族

## 教育プロジェクト

教育プロジェクトでは、3～5歳の子どもたちの就学環境の改善、基礎教育での入学率の増加、子どもにとって分かりやすい教材の普及、課外活動に参加する子どもたちの増加を目指しています。2013年度、西ドティADPが両親への啓発活動やEarly Childhood Development (乳幼児期発達、以下ECD) センターの整備などを行った結果、対象年齢の1,124人の子どもたちがECDセンターに通うようになり、楽しく学んでいます。また、貧困などの理由で学校での勉強を続けることが困難な子どもたちのために学用品を支給し、学校外での活動を実施しました。



教育の重要性を理解するため行われたイベントの様子。クイズ形式で楽しみながら学んでいます



学校に通えることは子どもたちにとって大きな喜びです

ライカル君(11歳)は障がいがあり、また非常に貧しい家庭環境のため、これまで学校に通ったことがありませんでした。しかし、障がいを持つ子どもが無料で通える学校をワールド・ビジョンが紹介し、遠いその学校まで通えるよう交通費を支援したことで、2013年5月から小学校の1年生として学校に通い、勉強ができるようになりました。学校に通い始めてからしばらく経ち、感想を聞くと、「学校で、友だちと一緒に勉強することができて、すごく幸せです!」と、話してくれました。

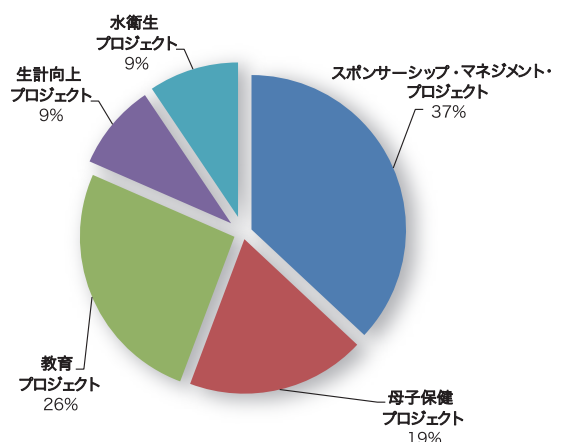
## 会計報告

### 収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

NPL-196899	
(単位:円)	
<b>プログラム支援額</b>	
チャイルド・スポンサーシップ	24,117,189
当期支援額	24,117,189
前期繰越金	984,416
<b>プログラム支援額合計</b>	<b>25,101,605</b>
<b>プログラム支出額</b>	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	8,523,466
母子保健プロジェクト	4,321,199
教育プロジェクト	5,958,097
生計向上プロジェクト	2,080,818
水衛生プロジェクト	2,170,944
<b>プログラム支出額合計</b>	<b>23,054,524</b>
次期繰越額	2,047,081

### 支援分野別内訳 (NPL-196899)



## 水衛生プロジェクト

水衛生プロジェクトは、子どもたちの健康に直接的に影響する地域住民一人ひとりの衛生環境や公衆衛生、安全な飲み水へのアクセスの改善を目指し、2013年4月に始まりました。地元のNGOや医療機関、コミュニティの人々と協力し、トイレを持つことの大切さを啓発しながら、844世帯にトイレを設置できるよう支援しました。これらの取り組みの結果、支援地域内の4つの集落すべての世帯に、トイレが設置されました。新たにトイレを設置したある男性は、「以前は川やジャングルで用を足していたので、人や野生動物が来るのではないかと感じて不安でした。今は自分たちのトイレがあるのでそんな不安はなく、嬉しいです」と話してくれました。



各世帯に設置されたトイレ



水衛生に関する啓発イベントの様子

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクトでは、チャイルドとの手紙の交流や毎年成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

同時に、チャイルド・スポンサーシップのチャイルドとしては登録されていない地域の子どもたちも、このプロジェクトの様々な活動に参加しています。2013年度に開催された子ども集会には、約900人の子どもたち（チャイルド以外も含む）が参加しました。



子ども集会でゲームを楽しむ地域の子どもたち

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。